

# 授業前に

## - 1 年間指導計画の作成

学習指導要領に示されている地理歴史科・公民科の各科目の目標は、1年間、あるいは3年間の継続的な学習活動を通して達成されるものである。年間指導計画は、1年後にこのような生徒になって欲しい（学力を身に付けて欲しい）という成長後の姿をイメージして立案したい。

### 1 年間指導計画を作成する方針

#### (1) 3年間を見通した年間指導計画を立てる

各学校の教育課程の中で、地理歴史科・公民科の各科目がどのように位置付けられているかを確認し、卒業までを見通して各科目の指導計画を立てる。また、他の教科や総合的な学習の時間、教科「情報」、学校行事等との関連を図って計画する。

#### (2) 定期考査や学校行事の日程を考慮して授業進度を配分する

各考査までの授業時間数や学習内容をバランス良く、また、ゆとりをもって配置する。また、定期考査終了ごとに予定の内容・範囲が進められているか確認する。

#### (3) 教科の目標や「評価の4観点」を踏まえた年間指導計画にする

「民主的、平和的な国家・社会の形成者としての必要な資質や自覚を養う」ためには、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「資料活用の技能・表現」「知識・理解」の4つの評価の観点（学力の観点）をバランスよく踏まえた指導計画を立てることが重要である。

### 【参考】 地理歴史科・公民科の目標、評価の観点及びその趣旨

地理歴史科の教科目標	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。	
地理歴史科の評価の観点	関心・意欲・態度	歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。
	思考・判断	歴史的・地理的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。
	資料活用の技能・表現	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的・地理的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。
	知識・理解	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。
公民科の教科目標	広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。	
公民科の評価の観点	関心・意欲・態度	現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。
	思考・判断	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断する。
	資料活用の技能・表現	諸資料を収集し、有用な情報を主体的に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。
	知識・理解	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

## - 2 「評価の4観点」を取り入れた指導計画の作成

「評価の4観点」を取り入れた指導計画を立てることで、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」などの生徒の多様な学力を育成することができる。作成に当たっては、教科会で分担したり協議したりしながら進めると効率的である。

### 1 「評価の4観点」を取り入れた指導計画の作成手順

年間指導計画表に教科書の各章・指導項目を配置し、配当時間数を入れる。

各章ごとに評価規準を作成し、評価の観点の重点化を行う。【p.3に具体例】

- ・『高等学校学習指導要領解説』『評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料』（国立教育政策研究所）を参考にし、生徒の実態を考慮する。
- ・年間を通しては、「評価の4観点」のバランスが取れていること。

各章ごとの指導と評価計画を立てる。【p.4～5に具体例】

- ・各節に時間数を配当する。評価の観点の重点化を図る。
- ・授業時間ごとの評価場面・評価方法と評価規準を決定する。
- ・各章の指導が終わった段階では、「評価の4観点」がある程度バランスが取れていること。

### 2 指導計画作成の留意事項

#### (1) 評価項目を精選・重点化する（指導内容にメリハリを付ける）

1時間に評価できるのはせいぜい1～2観点（場面）である。評価場面や評価項目を絞る。

#### (2) 学習評価と学力評価を分ける

生徒の学習状況をとらえ、教師の指導の可否をチェックする学習評価（形成的評価）と目標とする学力が身に付いたかどうかをチェックし、評定に導くための学力評価とを区別する。

#### (3) 「関心・意欲・態度」の評価を性格・行動面の評価と混同しない

この観点は「学習態度（授業への参加態度、学習の真面目さ）」ではなく、「教科の学習内容への関心（学習したことを生活に活用する傾向性）」である。どのような「知識・理解」に支えられ、どのような「思考・判断」を経て、「関心・意欲・態度」が育ったのかを継続的に評価することが大切である。換言すれば、授業中や単元の区切りあるいは年度末に、「どのような関心・意欲が育てられたのか」を評価するのであり、単に導入段階を重視したり、「何回手を挙げたか」「真面目にノートを取っているか」を評価することではない。

#### 【資料】 「学力」の分類

柴田義松による分類（『学び方の基礎・基本と総合的学習』明治図書、平成10年、などより）

学 力	{	・学んだ力	= 基礎的知識・技能（学習到達度）
		・学ぶ力	= 学び方 { 問題解決の思考・判断力（論理的思考力） 問題解決の技能・表現力（多様な学習スキル） ひとりで・みんなと・先生に学ぶ
		・学ぼうとする力	= 学ぶ意欲・関心・態度（やる気）

市川伸一による分類（『学ぶ意欲とスキルを育てる』小学館、平成16年、より）

学 力	{	・学んだ力	(測りやすい力)... 知識、(狭義の) 技能
		・学ぶ力	(測りにくい力)... 読解力、論述力、討論力、批判的思考力、問題解決力、追究力

(測りにくい力)... 学習意欲、知的好奇心、学習計画力、学習方法、集中力、持続力、(教わる・学び合うときの) コミュニケーション力

3 「評価の4観点」を取り入れた年間指導計画の例：「世界史A」

学 期	単 元	評 価 規 準	評 価 の 重 点				評 価 方 法
			関 心 意 欲 態 度	思 考 判 断	資 料 活 用 現 表	知 識 理 解	
1 学 期	第 部 諸地域世界と特質 【全8時間+夏季課題等】 第1章 諸地域世界の特質 【8時間】 第2章 東西世界の交流 【5月課題、夏季課題】	風土、民族、宗教に着目しながら、諸地域世界の歴史的特質を大局的に把握し、その特質が現代のその地域における社会・文化の基盤となっていることに気付いている。					ノート点検 連休課題 夏季課題 中間考査
	第 部 一体化する世界 【全28時間】 第1章 大航海時代とヨーロッパ 【2時間】 第2章 アジア諸国の繁栄 【2時間】 第3章 拡大する近代ヨーロッパ 【4時間】	16世紀以降の世界商業の進展と資本主義の確立を中心に世界の一体化の過程を理解している。大航海時代を契機に地球規模の交流に拡大したことを理解している。					課題提出 ノート点検 期末考査
	第4章 近代の欧米社会 【10時間】	18世紀後半から19世紀にかけての産業社会と国民国家の形成について理解している。					課題提出 中間考査
2 学 期	第5章 ヨーロッパの進出とアジア 【4時間】	ヨーロッパ諸国のアジア進出、アジア諸国の動揺と改革について、19世紀のアジアとヨーロッパの関係を理解している。					ノート点検
	第6章 帝国主義の時代 【6時間】	19世紀後半から20世紀初期の世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解している。					期末考査
3 学 期	第 部 現代世界と日本 【全16時間】 第1章 20世紀の特質 【1時間】	一体化した現代世界の特質と展開過程を理解し、人類の課題について考察している。					課題提出 ノート点検
	第2章 2つの世界大戦 【7時間】 第3章 東西2陣営の対立 【5時間】	二つの大戦と世界、米ソ冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と紛争、平和共存の模索と多極化の進展について考察している。					
	第4章 20世紀から21世紀へ 【3時間】	1970年代以降の世界と日本の動向を考察している。					学年末考査
	主題学習 ポスト冷戦期の諸問題 【冬季課題+1時間】	現代において人類の当面する課題を歴史的観点から追究し、これからの世界と日本を展望している。					

【資料】 今後望まれる学力とは（アンケートより）

「学力低下が深刻な側面は何か」

（国立大学学部長（文系）に対するアンケート結果、平成10年、大学入試センター）

「自主的、主体的に課題に取り組む意欲」81.6%、「論理的に思考し、表現する力」72.3%

「文献検索力・学び方」43.9%、「基礎科目の理解」37.7%、

「今後ビジネスに必要な基礎・基本的能力とは何か」

（企業人事担当者に対するアンケート結果、平成15年、経済同友会）

「問題解決力」75.9%、「行動力・実行力」75%、「新しい知識を身に付けようとする力」72.3%、「論理的思考力」67.4%、「柔軟な対応力」64.7%、「情報収集力」50%

4 「評価の4観点」を取り入れた各章の指導計画例(世界史B「ヨーロッパ・アメリカの諸革命」)

(1) 各節に時間数を配当する。各節ごとに評価の重点化を図る。

ウ 第4章 近代の欧米社会 (単元 ヨーロッパ・アメリカの諸革命)		時間数 (11時間)	関心・意欲・ 態度	思考・判断	資料活用の技能 ・表現	知識・理解
節 (小単元)	イギリス産業革命	(2時間)				
	アメリカ独立革命	(1時間)				
	フランス革命	(2時間)				
	反動と改革	(1時間)				
	国民国家への道	(3時間)				
	アメリカ大陸	(2時間)				

(2) 授業時間ごとの評価場面・評価方法と評価規準を作成する。

節(小単元)	評価場面	評価規準
イギリス産業革命 (2時間)	【第1限 展開】イギリス産業革命の背景を考える場面	【思考・判断】イギリス産業革命の背景と影響について、イギリスの国民経済という視点だけではなく、アジア・アフリカ・アメリカを含めたグローバルな視点から多角的に考察している。
	【第1限 まとめ】ノートにまとめを書く場面	【知識・理解】産業革命の波及により19世紀半ばまでにイギリスの覇権が確立するとともに、イギリスを中心とする世界資本主義の3層構造という形で世界の一体化が進んだことを理解し、その知識を身に付けている。
アメリカ独立革命 (1時間)	【第3限 展開】アメリカ独立革命の意義と限界を考える場面	【関心・意欲・態度】アメリカ独立革命に対する関心と課題意識を持ち、意欲的に追究するとともに、この革命について考えようとしている。
	【第3限 展開】アメリカ独立革命の意義と限界を考える場面	【資料活用の技能・表現】アメリカ独立宣言の意義とその限界に関する資料から、有用な情報を選択して活用している。
フランス革命 (2時間)	【第5限 展開】フランス革命の意義と限界を考える場面	【思考・判断】フランス革命について、普遍的な人権の思想や自由主義・国民主義の提起という視点だけではなく、人種差別や性差別という視点から、多角的・多面的に考察している。
	【第5限 まとめ】ノートにまとめを書く場面	【知識・理解】フランス革命で提起された普遍的な人権の思想や自由主義、ナショナリズムが、ナポレオン戦争を通して各地に広まったことを理解し、その知識を身に付けている。
反動と改革 (1時間)	【第6限 展開】大陸における諸潮流の関係を考える場面	【関心・意欲・態度】ウィーン体制下の思想の諸潮流に対する関心と課題意識を持ち、意欲的に追究するとともに、19世紀前半の社会について考えようとしている。
	【第6限 展開】大陸における諸潮流の関係を考える場面	【資料活用の技能・表現】ウィーン体制下の思想の諸潮流に関する資料から、有用な情報を選択して活用している。
国民国家への道 (3時間)	【第7限 展開】二月革命・三月革命の影響の作業場面	【思考・判断】1848年の革命について、自由主義と国民主義の視点から考察し、革命の意義と限界を公正に判断している。
	【第8限 展開】クリミア戦争とロシアの改革を考える場面	【知識・理解】1848年の革命とクリミア戦争が19世紀の分水嶺となり、19世紀の後半には欧米で国民国家の形が整ったことを理解している。
	【第9限 展開】イタリアとドイツの統一を学習する場面	【思考・判断】19世紀の後半の欧米で国民国家の形が整っていくことを、英・仏と独・伊を比較・考察している。
アメリカ大陸 (2時間)	【第10限 展開】ラテン=アメリカの独立を環大西洋の地図に作業する場面	【思考・判断】アメリカの独立、フランス革命、ラテン=アメリカの独立について、環大西洋世界で起こった一連の政治的変動という視点から考察し、公正に判断している。
	【第10限 展開】ラテン=アメリカの独立を環大西洋の地図に作業する場面	【資料活用の技能・表現】アメリカの独立、フランス革命、ラテンアメリカの独立など環大西洋世界で起こった一連の政治的変動に関して世界地図等を適切に活用し表現している。
	【第11限 展開】南北戦争を考える場面	【資料活用の技能・表現】南北戦争に関する資料から、有用な情報を選択して活用している。

(3) 授業時間ごとの指導・評価計画にまとめる。

時	展 開	評 価
第1限 イギリス産業革命	【導 入】中学校の学習事項の確認（発問する） 【展開】イギリス産業革命の背景（背景を多面的に考える） 【展開】産業革命の経過と影響（産業社会と世界経済） 【まとめ】産業革命の世界史における意義（世界経済の三層構造、産業社会）	【思考・判断】 【知識・理解】
第2限 コーヒーの歴史	【導 入】コーヒークイズ（紅茶・コーヒー・カカオの比較） 【展開】コーヒーの歴史（コーヒーの起源、イスラーム世界とコーヒー） 【展開】生活革命、コーヒーハウスと近代文化 【まとめ】生活革命を背景としたイギリス産業革命	
第3限 アメリカ独立革命	【導 入】アメリカ国旗の変遷 【展開】アメリカ独立革命の経過（映像による説明とノート作業） 【展開】アメリカ独立革命の意義と限界（クリオーリョ革命） （資料 アメリカ独立宣言、インディアンと黒人） 【まとめ】アメリカ独立革命の意義	【関心・意欲】 【技能・表現】
第4限 フランス革命	【導 入】マリ=アントワネット 【展開】フランス革命の背景 【展開】フランス革命の経過 【まとめ】フランス革命の原因、革命の展開	
第5限 ナポレオン帝国と 革命の意義	【導 入】ナポレオンクイズ 【展開】ナポレオン帝国の盛衰 【展開】フランス革命・ナポレオン戦争の意義と限界 【まとめ】普遍的人権思想、自由主義・国民主義の提唱、国民国家の成立	【思考・判断】 【知識・理解】
第6限 ウィーン体制	【導 入】ギリシア独立戦争、七月革命の図版、ベートーヴェン 【展開】ウィーン体制の正統主義と復古主義 【展開】自由主義・ナショナリズム・ロマン主義・社会主義 【まとめ】19世紀前半の社会思想の潮流の形成	【関心・意欲】 【技能・表現】
第7限 1848年の革命	【導 入】ショパン「革命のエチュード」(七月革命) 【展開】二月革命・三月革命 【展開】1848年の革命の広がり（地図を利用） 【まとめ】19世紀の分水嶺としての1848年革命	【思考・判断】
第8限 英・仏の自由主義、 クリミア戦争 とロシアの改革	【導 入】第1回万国博覧会（イギリス） 【展開】イギリス・フランスにおける自由主義と国民主義の進展 【展開】クリミア戦争とロシアの改革 【まとめ】英・仏での国民国家としての統合、クリミア戦争の意義	【知識・理解】
第9限 ドイツ・イタリア の統一	【導 入】マリアンヌとゲルマニア（図版） 【展開】イタリアとドイツの統一 【展開】ドイツ帝国の内政と外交、オーストリアとバルカン情勢 【まとめ】独・伊の統一、多民族国家オーストリアのバルカン進出	【思考・判断】
第10限 ラテン=アメリカ の独立と環大西洋 革命	【導 入】中学校の学習事項の確認（発問） 【展開】ラテン=アメリカの独立（資料 世界地図利用） 【展開】クリオーリョ革命（アメリカ合衆国も含める） 【まとめ】経済的にイギリスへ従属したラテン=アメリカ諸国	【思考・判断】 【技能・表現】
第11限 アメリカのあゆみ	【導 入】リンカン 【展開】アメリカの領土の拡大と移民の増加 【展開】南北戦争とアメリカの統一 【まとめ】分裂の危機としての南北戦争、後半に工業化	【技能・表現】

### - 3 シラバス (syllabus) の作成

生徒や保護者に対してシラバスを配付する学校が増えている。分かりやすくコンパクトで、生徒が自学自習にも活用できるシラバスを作成したい。学校の指導に対する説明責任を果たす観点からも有用である。

#### 1 年間指導計画 (評価計画を含む) とシラバスの違い

年間指導計画は教える側の資料であり、「4 観点を入れた評価規準」を取り入れるなど、詳細で緻密なものである。一方、シラバス (「講義概要」などと訳される) は、生徒や保護者に配付することを目的としており、分かりやすくコンパクトであることが求められる。

#### 2 シラバスの効果

- (1) 生徒にとって.....学習計画を立てやすく、学習意欲が高まる。自己評価力が身に付く。
- (2) 保護者にとって.....学校の教育活動の様子が分かる。子どもとの対話が増える。
- (3) 学校・教師にとって...学校の説明責任を果たすことができ、理解と信頼が得られる。  
計画的に授業ができる。自らの授業方法を改善する資料になる。

#### 3 シラバスの記載項目例

(1) 教科・科目構成の全体像...学年・単位数	(5) 使用教材...教科書、副教材等
(2) 教科・科目の学習到達目標	(6) 授業の進め方 (受け方)
(3) 指導計画...ねらい・学習内容・学習形態・進捗等	(7) 定期テスト情報...テストの範囲等
	(8) 課題・提出物の情報
(4) 評価の観点・方法...評価材料やその割合	(9) 勉強の仕方...学習者に対する要望、注意点

#### 4 シラバス作成のポイント

- ・生徒・保護者主体の表現を使い、見やすく、分かりやすくする。
- ・学習内容、到達目標、評価方法を、A4判で1～3枚程度にまとめる。
- ・チェック欄を設けるなど生徒の学習計画や自学自習に役立つように工夫する。
- ・教科会で検討し、毎年更新する。

#### 5 シラバスの具体例 (1) (日本史Bの一部) 第3学年 [4単位]

- 1 学習の目標 日本の歴史の展開を総合的に考察し、日本文化と伝統の特色を深く考え、歴史的思考力を養うことを目指します。
- 2 使用教材 教科書、図説資料集、教師作成プリント、用語集
- 3 評価の方法 定期考査・小テストに加えて、ノート提出、授業への参加状況などにより総合的に評価します。

月	学習内容	時間	到達目標	チェック欄
4	第9章 近代国家の成立			
	1 開国と幕末の動乱	4	開国がその後の社会や経済にどのような影響を与えたか理解できた。	
	2 明治維新と富国強兵	6	新政府による政治・経済改革がどのように進められたか理解できた。	
5	3 立憲国家の成立と日清戦争	5	自由民権運動から大日本帝国憲法制定に至る経過や諸制度の整備を通して日本の議会政治がどのように始まったか理解できた。 日清戦争が発生した背景にある国際情勢について理解できた。	
	1 学期中間考査		出題範囲 [教科書P. ~P. ]。授業プリントNo ~ ]	
	[5月〇日]		評価の方法 定期考査 ノート点検 小テスト(9回) 春休み課題 授業中の発言	
	4 日露戦争と国際関係	3	この戦争が両国の帝国主義による植民地支配をめぐる争いであることが理解できた。	

6 シラバスの具体例(2)(日本史Bの一部) 第2学年1学期

教科(科目)	単位数	該当学年	類型	履修規定	教科書名	副教材名称等
地理歴史科(日本史B)	3	2年	文系	選択	****	*****

到達目標	我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立つて総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養います。
到達目標に向けての具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本史に関する興味・関心を高め、自主的に学習する態度を育てます。</li> <li>・精選した基本的な用語・事柄をもとに歴史の基本的な流れを理解しましょう。</li> <li>・近現代史の基となった古代から近世の日本人の文化を理解しましょう。</li> <li>・諸外国とのつながりや交流、対立の様子を理解しましょう。</li> </ul>

月	時間	単元	学習内容	評価のポイント	チェック	
4	1	課題考査(春休みの課題から出題。世界各国・日本の地名プリントより)				
	2	ガイダンス 日本史の学習方法：授業の展開について				
	3	第1章 日本文化のあけぼの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身分階級の別がなく、採取経済であったという特徴を理解する。</li> <li>・旧石器・新石器文化の特徴を理解する。</li> </ul>	日本列島形成の前と後での人びとの生活の違いが理解できた。 旧石器・新石器文化の特徴が理解できた。		
	4	1. 文化の始まり				
	5	日本列島と日本人				
	6	旧石器時代の文化				
	7	縄文文化の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農耕の開始をきっかけに、社会が大きく変化することに気付く。</li> <li>・弥生文化の内容を理解する。</li> <li>・中国の歴史書に見る紀元前1世紀から3世紀頃の日本の様子について理解する。</li> </ul>	土器をともなう縄文文化の特徴と人びとの生活が理解できた。		
	8	2. 農耕社会の成立				
	9	弥生人の生活				
	10	小国の分立				
	11	邪馬台国連合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大王を頂点とする大和政権の成立について理解する。</li> <li>・古墳の特質とこの時代の文化について理解する。</li> <li>・東アジア諸国との抗争・交流について理解する。</li> <li>・大和政権の仕組みを理解する。</li> </ul>	初めての農耕(稲作)の様子を現代と比較できた。 農耕開始と集落の大規模化、小国の形成の過程を理解できた。 魏志倭人伝(史料)を読み、その内容を理解できた。		
	12	3. 古墳と大和政権				
	13	古墳の出現と大和政権				
	14	古墳の造営・古墳文化の変質				
	15	東アジア諸国との交渉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東アジア諸国との抗争・交流について理解する。</li> <li>・大和政権の仕組みを理解する。</li> </ul>	古墳文化の特徴を把握できた。 大和政権の大陸進出と東アジアとの交渉について理解できた。		
	16	大陸文化の受容				
17	古墳時代の人びとの生活					
18	古墳時代の生活					
19	大王と豪族					
20	中間考査(『第1章 日本文化のあけぼの』)					
5	21	第2章 律令国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大和政権の政治推移について理解する。</li> <li>・大王と豪族を中心とする中央集権国家形成に向けての経過を理解する。</li> </ul>	東アジア情勢と日本の中央集権化が関係あることが理解できた。 大和政権の推移が理解できた。 聖徳太子の政策の目的が理解できた。		
	22	1. 推古朝と飛鳥文化				
	23	中央集権への歩み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・律令国家建設の歩みについて理解する。</li> <li>・日本の律令の内容について、史料も参考にしながら考察する。</li> <li>・律令法に支配された社会の状況について理解する。</li> </ul>	遣隋使派遣の意義が理解できた。 唐や新羅の変革により日本の国家体制の変革が求められたことが理解でき、改革の内容も把握できた。		
	24	推古朝の政治				
	25	隋との交渉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良時代の政治推移について理解する。</li> <li>・盛唐文化・仏教の影響について気づく。</li> <li>・律令制の矛盾について理解する。</li> </ul>	律令制形成の過程を把握できた。 大宝・養老律令に基づく諸制度の内容を理解できた。 律令農民の生活を理解できた。		
	26	2. 律令国家の成立				
	27	大化の改新	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良時代の特徴について理解できた。</li> <li>・奈良時代前半の政治の推移を理解できた。</li> <li>・奈良時代後半の政治の推移を理解できた。律令制支配の矛盾の表面化について理解できた。</li> </ul>			
	28	律令国家の形成				
	29	律令法と政治機構				
	30	班田収授法と農民				
31	3. 平城京の時代					
32	遣唐使・平城京と国土の開発					
33	聖武天皇と政界の動揺					
34	聖武天皇と政界の動揺					
35	あたらしい土地政策					
36	まとめ	試験範囲の復習				
7	31	期末考査(『第2章 律令国家の形成』)				
評価について		提出物	春休み課題・授業ノート・プリント			
		評価方法	定期考査(中間考査・期末考査) 課題考査、提出物、授業態度等を総合的に評価します。			

## - 4 学習指導案の作成

学習指導案には、この授業でどのような生徒を育てるか（目標）、そのために何を教えるか（内容）、どのような方法・過程・形態で教えるか（方法）を記す。生徒の学力を多面的に育成するために、多様な発問・資料や教具、指導方法を盛り込みたい。

### 1 学習指導案作成の手順

#### (1) 「単元の目標」「本時の目標」を設定する

『学習指導要領』、教科書、生徒の実態等を踏まえ、単元目標及び本時の目標を設定する。授業者として、その単元を教える意義・価値をどのように認識しているのか、生徒にどのような学力を身に付けさせたいのかを考える。指導案に、単元設定の理由等を記述する「単元観」や生徒の学力・意欲、学級の雰囲気等を記述する「生徒観」として記述することもある。

#### (2) 指導内容を決定し、教材を作成する

目標に基づき指導内容を精選し、その内容を理解させるための教材・資料を収集する。

#### (3) 指導過程・指導方法を決定する

収集した資料を基に、指導目標を達成するのに最適な指導過程、指導方法を検討する。合わせて、発問計画（発問・指示・説明等）を立てる。

### 2 授業展開について

(1) 導入...興味の喚起、課題に気付く、授業の方向付け等をねらいとする。前時までの簡単な復習や本時の学習内容について教科書を音読させてから展開につなげていくという方法や授業に関連するその日の新聞記事の紹介なども有効である。時間をかけすぎないように注意する。

(2) 展開...一時間の中に1～2か所「山」となる場面をつくる。「山」に向けて授業が徐々に盛り上がるように組み立てる。

(3) まとめ...学習内容の再確認、次時の予告などを行うなどポイントを絞る。

### 3 「学習活動」「指導上の留意点」「評価の観点と評価方法」の欄について

(1) 「学習活動」の欄は、生徒の学習活動を記し、文末は「～する」となる。教師が、「興味・関心」を高める教材、「技能・表現力」を高める教材、「思考・判断」を促す教材を準備することで、生徒は作業したり、討議したり、発表したりする。

(2) 「指導上の留意点」の欄は、教師の指導内容を記し、文末は「～させる」となる。「発問する」「指示する」「説明する」などの指導方法や取り扱いの観点を記す。また、指導形態、教具の利用方法、資料出典も記述する。

(3) 「評価の観点と評価方法」の欄は、「評価の4観点」に基づき、何を、どのように評価するか記す。実現可能な評価内容・方法にする（1～2の観点にする）。

### 4 板書計画について

板書内容を見れば、講義を一方的に行った授業か、生徒とコミュニケーションを取って展開した授業なのかが分かる。生徒が家庭でノートを見返してみたいくなる板書を心掛けたい。授業前に「板書案」を作成しておく。授業の終結部で本時のまとめをするために黒板1枚に納まる内容にする。何を書いて何を書かないか、途中で消す内容、黒板のどの部分に書くか、字の大きさ、線・囲み・矢印・色チョークの効用、図解や略地図・想像図の挿入などイメージ化に努める。発問・説明との関連、板書事項をノートに写す時間、板書のスピードも考慮する。

## 学習指導案の形式

地理・歴史科（科目名）学習指導案

指導者 ○○○○印

- 1 日時・場所 平成○○年○○月○○日（○）第○限 ○○教室
- 2 学級 ○年○組（科名・スタディ名）男子○名 女子○名 計○名
- 3 教材 教科書名（発行所名）
- 4 単元 単元名
- 5 単元の目標 （単元観、生徒観を記述することもある）
- 6 単元指導の計画（本時の位置）
  - (1) ○○○○ 時間 小単元名を指導計画順に記し、配当時間を示す。構造図で示すこともできる。
  - (2) ○○○○ 時間（本時 ○/○）
  - (3) ○○○○ 時間
- 7 本時の指導
  - (1) 目標 指導意図を「4観点」に基づき箇条書きにする。
  - (2) 資料 教具、副教材名、自作プリント・小道具などの準備物
  - (3) 本時の指導計画

段階	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点	評価の観点と評価方法
導 入  (分)	【指導項目を記す】 体言止め	【生徒の動きを記す】 「発表する」「質問する」「書写する」「作業する」「調べる」「資料を考察する」「作成する」「実践する」「討論する」など	【教師の活動を記す】 「発問する」「指示する」「指名する」「助言する」「評価する」「ほめる」「板書する」「机間指導する」「機器を操作する」「理解させる」「気付かせる」「考えさせる」など  【学習形態、資料の取り扱いの観点、関連資料などを記す】	【評価場面、評価規準、評価方法を記す】 ・「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」 ・方法：「質問による」「小テストによる」「プリントの記入状況による」「ノート点検による」など ・スペースの関係で、「指導上の留意点」欄にまとめて記述することもある。
展 開  (分)				
終 結  (分)				

- 8 評価
  - ・本時の指導目標と照合させる。「～することができたか」
- 9 御高評

「学習指導案」の他に、「教科書、副教材のコピー」「板書案」など参考資料を加える。